

## 国際化とは何か

ジョーンズ・リンゼイ

この課題を調査し始めた時、日本中に国際化ということの結果を捜した。日本人が外国人に対してどういう反応をしたり、どういう風に外国人を扱ったりするか、あるいは、観光地で外国の旅行者のためにどんな措置を行っているか、ということが日本が国際化されている証明になると思った。

それで、広島から東京に行って、京都に行って、外国人がほとんどいない四国の田舎まで行った。やはり、日本人の国際化した程度は地方によって違った。一番国際化されていたところは勿論東京であった。次は京都で、三番は広島で、最後に四国の田舎、という順位になった。

一番目立った違いは外国人の扱い方であった。それは、東京・京都と広島・四国では非常に違うものであった。西洋人として広島・四国で一番不満に思うことはじろじろ見られて、バカにされ「ハロー、ハロー」と呼ばれることである。ところが、東京と京都ではそういう経験があんまりなかったのである。東京と京都では大体、普通の人間として扱ってくれた。しかし、日本ではわたしが日本語を話せることを全然信じてくれない日本人が多い。東京と京都で私が日本語で何か言ったら、英語で答えてくれることが少なくなかった。私は日本語ができて、日本にいて、日本人と話すので、英語で答えるのは少し変じゃないかということをしてできるだけ丁寧に指摘したのに、英語で話し続けた人も多い。広島でもそういう経験はあったけれども、英語ができない日本人は、私が彼らのほうに何かたずねたら、手を激しく振りながら、no speaku Ingurishu (英語が話せない)と答える。そこで、「日本語を話していますが」と言ったが、だめであった。彼らはすぐ逃げるのである。四国ではまた少し違って、日本語ができる外国人がいるという概念がないようであったが、私がしゃべったのが実際に日本語だったことを認めると、よろこんだ。

日本人が英語を分かって、しゃべりたいということは国際化のしるしだと思う日本人が多いだろうが、日本語を勉強するために来た外国人といつも英語を話すことは、国際的には理解され難いことである。それは日本人が外国人の考え方を充分に分かっていないことを示している。少なくとも西洋人にとって、日本で日本人と日本語を話しているのに、日本語で答えないのは失礼である。しかし、私は、日本人は西洋人を見ると、きっと英語が分かると思って、英語で話せなかったら失礼なように感じるのではないだろうかとも思う。それが分かってきたときに、日本人と外国人では思っている国際化というのが違うことだと考えはじめた。

外国人という言葉は西洋人だけを意味するのではない。国際化の「国際」は世界の各国

という意味である。だから、国際化というのはどの国からの外国人も含む言葉であるはずだ。それなのに、日本人の、西洋人の扱い方と、西洋人ではない外国人の扱いは全然違う。たとえば、一般的に言えば西洋人が優遇され、逆にアジアからの人と、特にアフリカの人が軽蔑されることである。

ここまでの調査の結果で日本が真剣に国際化している国だという意見を支持できないと感じた。外国の人のために英語で書いてある看板がたくさんある観光地や、外国人になれている東京人以外に、日本人は国際化の特徴を表さない。だから、なぜ日本で国際化というのがキーワードになったかよく分からなかった。何かが間違っていると思いはじめた。

一つには、表面的に日本人の国際化する努力がほとんど見えないが、見えるために表面的より比較的を使った方がいいかもしれない。つまり、西洋人としては日本の考え方と習慣になれていないので、変わっているものより日本の伝統的な続いているものの方が目につく。一方で、日本人の場合は変わっているものの方が目につくであろう。西洋人は日本人と同じ立場に立てば、思ったより日本が国際化した点もあると思うかもしれない。

もう一つは、西洋人にとって国際化とは無意識にほとんど西洋化するという意味であることである。だから、西洋人の場合は国際化という言葉を知ると、何だか特別なイメージをもつから、日本のと違うので、がっかりする人が多いのだ。

だから、日本の国際化ということ判断する前に、西洋人と日本人の国際化の概念が違うことを理解する必要がある。では、それはどう違っているのでしょうか。

いろいろな国からの留学生と日本人に、この国際化という言葉にどういう意味があると思うかというアンケートを書いてもらった。西洋人の留学生はやはり次のように答えた。「日本に来てから初めて聞いた言葉だ。自分の国では使わないけれども、日本では非常に重要な言葉だそうだが、私の国に比べて、日本は国際化に対して前向きではない国らしい。」とか「国際化が何だかよく分からないけれど、日本にはないことだ。」とか「国際化は冗談じゃないか」というようなことである。

アジア人の場合、西洋人のように答えた人もいたけれども、二人の人は次のように違った回答をした。「私の国は日本のように国際化ができたらいと思う。」「日本は国際化に成功している。すなわち、アメリカと競争できるようになったほどアメリカのようにビジネスをした。それは国際化の意味だと思う。」というような経済に関する答えをした。

日本人は国際化の定義についてどう思っているか。単に「分からない」というのが最も多い答えであった。一番面白かったのは次の二つの答えである。「当局が、『東京にいるサラリーマンが外国で九年間働いたことによって国際化した』というのは商業界だけでしか通用しない。経済は日本の生活に避け難い影響を与える程重要である。インターナシヨ

ナルアンダースタンディングではなくて、経済のために政府が留学を奨励する。日本は外国と友好関係がなかったら、経済を拡大し続けられなくて、ほとんど生きることさえできないようになることがよく分かっている。現在、アメリカとの貿易摩擦のせいで、保護貿易論の脅威が強くなっている。だから、今は昔より会社が国際化しようと必死である。保護貿易論の影響を避けるため、外国に工場を設立するというのは国際化の意味である。」広島のマツダロジスティクスサービスの社員は日本の場合には国際化は何かという質問に応じて、「全然意味のない言葉だね。政府は具体的な政策のかわりにそういうはっきりしない言葉を本当の政策として使う。一生懸命国際化している雰囲気をつくったら、アメリカに対していいと思うが、本当の意味はないと思う。」と言った。

あきらかに、日本風の国際化というのは、外国人だけではなく、日本人も何だか分かっていない。日本の政府は、日本の国際化を目的とした政策を公布して、外国の政府が日本の態度を分かるようにしたかったら、外国で国際化とは一般的にどういう意味なのかということを理解したほうがいい。でないと、日本の政府は、外国人も、日本人をもバカにしているように見えて困るのである。